



▲名誉市民となった上野さん



▲推挙状と名誉市民章を受け取った上野さん  
(左から3人目)

5/17  
うえのあきら  
上野 晃さん  
4人目の名誉市民に

5月17日、登別市で4人目の名誉市民となった上野晃さんに市長から推挙状と名誉市民章が手渡されました。名誉市民の制度は、市勢の発展または社会文化の興隆に著しい功績があった方に、名誉市民の称号を贈り、その功績と栄誉を長くたたえることを目的として、昭和52年に創設されました。上野さんは、昭和63年8月に初当選して以来、5期20年に渡り、登別市長として市政の推進に努めました。在任中は協働のまちづくりを目指し、市民のまちづくりへの参画を進めるため、市民の提言や意見を基に市政運営の最高規範として『登別市まちづくり基本条例』を制定するなど、地域の発展に貢献しました。この条例に基づく『市民自治推進委員会』は、現在も協働のまちづくりに向けて議論する場となっています。上野さんは、令和元年度に名誉市民に決定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、称号の授与が延期となりました。当日、市長からお祝いの言葉とともに名誉市民章が手渡されると、上野さんは「大変光栄です。恐縮しちゃうな」と、市民や職員に長年愛されてきた笑みを浮かべていました。

6月11日、市民会館で『登別ゼロカーボンマルシェ』が開催されました。会場では、市と市内企業3社が脱炭素社会に向けた先進的な取り組みなどについて講演。『小水力発電』『太陽光発電』『廃熱融雪』など各社の持ち味を生かした取り組みに、参加者は興味深く耳を傾けました。また、ロビーでは環境負荷の低減に効果があり、日常生活や事業に取り入れることができる最先端技術を紹介するパネル展示も行われ、多くの人が足を止めていました。

持続可能な社会へ  
登別ゼロカーボンマルシェ  
6/11



▲市長と意見を交換する小玉さん

6月7日、市役所で『市長室フリータイム』を開催しました。この事業は、市民がまちづくりや市政について市長と直接話し合うことができるものです。今回参加した小玉優月さんは、登別を多様性のあるまちにしたいと、地域活性化と多様性をテーマにプレゼンテーションし、市長と意見を交換しました。終了後、小玉さんは「さまざまな視点から物事を見る大切さを感じることができ、とても良い機会になりました」と話しました。

多様性あふれるまちに  
市長室フリータイム  
6/7



▲脱炭素社会に向けた講演の様子